

平成24年11月教育委員会会議（定例会）会議録

1 日 時 平成24年11月22日（木）午前10時00分～午前11時12分

2 場 所 所沢市立教育センター2階 大研修室

3 出席者 [委 員] 富田常世委員長、京谷圭子委員長職務代理者、吉本理委員、
佐藤徳一教育長

[事務局] 山寄裕司教育総務部長、平塚俊夫学校教育部長、斉藤雅裕
教育総務部次長、則武辰夫生涯学習担当参事兼生涯学習推進セン
ター所長、村川裕昭教育センター担当参事兼教育センター所長、
北健志教育総務課長、北田賢司教育施設課長、浅野浩一社会教育
課長、内堀耕介スポーツ振興課長、富田一成文化財保護課長、仲
法寛所沢図書館長、市川雅美教育総務課主幹兼教育企画室長、沼
田芳行学校教育課教育指導担当主幹兼健やか輝き支援室長、阿部
美和子保健給食課副主幹、青木穂高教育総務課主任

[書 記] 大部稔之教育総務課主査、鈴木明彦教育総務課副主幹

4 前回会議録の承認

5 会議の傍聴者 別添のとおり（1名）

6 開 会 【開会前傍聴者1名】本日の議案はなし。

7 協議事項 特になし

8 報告事項

○平成24年度 第66回成人のつどいについて（社会教育課）

○第30回「所沢で第九を」演奏会について（社会教育課）

○「所沢市図書館ビジョン(案)のパブリックコメントの実施について

(所沢図書館)

○図書館利用者懇談会について（所沢図書館）

○埼玉県学校給食調理コンクール結果と第7回全国学校給食甲子園・決勝大会出
場について（保健給食課）

(富田委員長)

給食センターがとてもおいしいということで、評価が関東の代表に選ばれるというところまでできているということ、もっとアピールしたほうがいいと思います。そうではないという評判があるようですが、これで打ち消せるのではないかということで、大いに期待しております。本当にありがとうございました。今後とも頑張ってくださいと思います。

○教育課程の編成等に係る視察報告について（学校教育課）

(吉本委員)

墨田区教育委員会の方とお話しする機会を作っていただき、ありがとうございました。この2学期制・3学期制の問題というのは、市長が公約に掲げていることと、全国でも色々な問題があつて、自分の中では相当緊張している問題ですが、実際に墨田区の教育委員に話を伺ってみると、最初に3学期制から2学期制に移行した時には、すごく大きな目標があつて実施したというよりは、3学期制がマンネリ化してきて、ここで2学期制の声が起こったので2学期制に移行してはどうか、といった肩の力が抜けてしまうような声がありました。これは10年を経過しての反省もあるとは思いますが、それから、墨田区は東京23区の中では、学業成績が芳しくないのが、移行することによって少し変化が起こるかという期待を持っていたが、その点はあまり変わっていないとのことでした。現場ごとに違いがあるとは思いますが、現場では2学期制、3学期制について、それほど緊張して語られていないというのが印象でした。たぶん、どちらにも利点や問題点があつたのではと思いますが、あまり大上段に構えずに考えていけば良いのではという感想を持ちました。

(京谷委員長職務代理者)

私も吉本委員と同じく墨田区へ行かせていただいたのですが、全く同じような感想を抱きました。最初は学力の向上を目指して2学期制に移行したようですが、実際の学力について質問したところ、あまり変わらないということでした。私としては元々、2学期制も3学期制も、現場で実際に働いている先生方などの意見を尊重して進めるものだと考えております。先生や保護者など、色々な方が集まって、学期制に対する意見の交換会のようなものは、

所沢市では行っているのでしょうか。その点についてまず疑問に思ったのですが、現実には市長が3学期制にしないというから移行するのではなく、やはり一番大事なのは、現場で働いている先生や皆さんのとの意見を十分に交わして、その中から一番良い方法を探していけば、2学期制でも3学期制でもどちらでも良いのではないかという感想を持ちました。

(沼田学校教育課主幹)

広く声を聞かせていただくという意味では、毎年、学校評価を行っております。教職員、保護者それから子ども達、学校評議員等の地域関係者の方々に学校そのものについて広く意見を伺い、承った意見については改善し、また次回への計画へつなげるように行っております。それについても公表という形になっております。

(平塚学校教育部長)

補足説明ですが、年度当初にはその年度の教育課程説明会を通して、また、年度末は先ほど話が出ました学校評価の保護者アンケート等を踏まえながら、教職員が自己評価をしております。また、それだけではなく、学校によっては学期ごとに振り返りの機会を持ったり、行事ごとにご意見をいただいたり、あるいは夏に地域の懇談会等を開いて、そういう中でも学校運営についてご意見をいただいているというのが現状でございます。

(冨田委員長)

私は高崎市と墨田区へ行かせていただきました。まず、高崎市ですが2学期制から3学期制に戻すにあたり、色々な問題が相当出るのではないかと思います。ほとんど苦情が出てきておらず、また市町村合併により、3学期制から2学期制になった学校が、その後2年で3学期制に戻るといった場合でも、問題が出ていない訳ではないという話を伺い、また保護者もどちらでもという考えなのか、学校を信頼しているということなのか、ほとんどお任せしているという感じを受けました。それから、今までは運動会予定の組み方が大変だったが、組みやすくなったと担当者からお聞きしました。ただ私は土曜授業を実施していない状況で、授業日数が足りるということが、いまひとつ気になります。ただ普通に計算し最低限の日数で、行事等を除けば足りるということであれば、足りるという意味をもう少し検討しなければな

らないのではという気がしました。本当に知識だけを教えて、それを評価するだけでいいというのであれば、それも有りかと思いますが、私がアメリカを視察した時に見た学校は、交通安全教室などを全て地域に任せており、学校では何も行っておりませんでした。日本はカードローンの問題が起これば、金銭教育をしなさい、性的な問題が起これば性教育をしなさい、麻薬が若年化してきたら麻薬教育をしなさいということで、総合の時間で扱っておりますが、実施する場合においても、国際化社会なので英語で実施しなさい、あるいは環境問題にしなさい等、色々なことを学校へ要求してくると、果たして普通の授業時間が足りているのかという感じがします。そういうことも含めて考えてみると、学校行事で子どもの日常生活に変化を持たせて、こころの問題を育てる場合には色々な行事を実施していく、それを普通の教科に置き換えてしまって良いのだろうか、やはり授業は学力向上というのが一番の課題ですから、それらを確保しようとするれば授業時間数は当然足らなくなるだろうと思います。墨田区の場合は、土曜日以外は行事を持たない、授業に専念するという感じで、非常に印象深かったですね。授業は継続的に行っていて、土曜日だけ色々な行事を持ってくるということで消化しているということを知ってきまして、所沢市がこれから考える新しい意味での3学期制、また新しい意味での2学期制ということで、視察して得たメリットを、例えばコンピュータを校務支援システムということで高崎市が取り入れていたことは、そのことによって時間数を確保していたということで、非常に良く解りました。それから、これは視察ではなくてステージ制の問題で、今、中間・期末テストは3学期制の場合、5つのステージになっています。通知表と評価についてですが、アメリカの通知表は5段階になっていて、何点取れば評価がどうなるのか、何点以上がA、B、Cになるのか、誰が見ても判るようになっています。日本は学力や意欲という項目があるので、意欲まで含めたものを評価しなければならないため、難しいところですが、5回位だったらこういうシステムを使えば評価ができるのではないかと思います。きめ細やかな評価をしながら、学期制は2学期制、3学期制のいずれにせよ、学期制よりも色々な中身を検討して、これを機会に新しい2学期制、3学期制の見直しを進めていったら良いのではという感想を持ちました。

(佐藤教育長)

1つは市や区が8年から9年の歴史の中で、色々な工夫をされていると感じました。全国には行っておりませんが、関東甲信越という形で見ていると思いますが、どれも工夫がされていて、これはとても大事なことだと思います。それからもう1つは各委員からの言葉にもありましたように、子ども達の意見を大事にする、保護者の意見を大事にする、それから地域の意見を大事にして教育課程は組まれるべきだということを、各区・市が工夫をして、独自のものを出していると思いました。この2点がやはり大事なものだと感じました。

(沼田学校教育課主幹)

今月20日、本年度第2回の学び改善プロジェクト委員会を開催させていただきました。本日の資料を含め、学期制や土曜授業等教育課程に係る視察について、意見を交換していただきました。この第2回学び改善プロジェクト委員会の記録につきましては、まだ開催直後でございますので、まとめ作業が終了しておりません。次回の教育委員会定例会でこの委員会の結果につきまして、ご協議をお願いしたく考えておりますので、よろしく願いいたします。

○各所管における事業報告について（教育総務部）

- ・小中学校におけるPPSの導入について
- ・スポーツ多目的グラウンド・市民体育館の利用について
- ・図書館ビジョンについて

(吉本委員)

電気料金のことで金額が下がったということで結構なことですが、事故とか落雷による停電があった場合の補修の時に、誰が来るのでしょうか。この請負業者の方が来るのでしょうか。

(斉藤教育総務部次長)

事故等があった場合には、電力の大もとが東京電力から来ておりますので、事故等に関しましては東京電力が対応することになります。

(富田委員長)

このエネットという会社は母体がガス会社のようなのですが、ガスで電力を作り、

それを売っていると考えてよろしいでしょうか。

(北教育総務課長)

エネットの出資会社は、NTTファシリティーズが40%、東京ガス、大阪ガスが各30%の出資比率になっておりまして、発電につきましては主に、自社設備で天然ガスを主体とした発電を行っております。それ以外では風力発電、太陽光発電等からも若干の電気を調達していると聞いております。

(富田委員長)

この会社の役員の中に、東京電力から来ている人や国の役人が入っているのでしょうか。

(北教育総務課長)

そこまでの資料を現在、持っておりません。申し訳ございません。

(京谷委員長職務代理者)

航空公園の運動場というのは、かなりたくさんの方が利用しているのでしょうか。

(内堀スポーツ振興課長)

土日はほとんど使用されておりますが、平日は空いていることが多いと聞いております。

(京谷委員長職務代理者)

面積はかなり広いのでしょうか。

(内堀スポーツ振興課長)

ラグビーもできる広さでございます。

(山寄教育総務部長)

航空公園駅を市役所側に降りていただき、市役所を正面に見て右側で、テニスコートの手前になります。かなり広く、利便性が高い施設でございます。今回は人工芝の敷設ということで、県と段階を経ていきたいと考えております。

(佐藤教育長)

図書館ビジョンの県内図書館との比較のところ、図書購入費や蔵書冊数、貸出冊数が5番目や3番目ということで、県内で上位にランクされておりますが、例えば試算として、県内5位になるまで人口1人当りの図書購入費を

上げると、総額がどのくらいになりますか。そういう計算は今までにしたことはありますか。あるいは、そうでなくても5番目というのは、さいたま、川口、川越、所沢、越谷が人口数上位5市ですが、例えばその5番目位に入るような図書購入費を所沢で調達すると、どれくらいの額になるのか。今、1人当たりの図書購入費は52番目となっております。

(斉藤教育総務部次長)

この52番目というのは人口1人当たりの図書購入費でございます。やはり人口が多いということで、例えば人口34万人の所沢市と1万人位の町で比べると、1万人の町だからといって、所沢市の34分の1の図書購入費かというところではないため、1人当たりで計算しますと人口が多い自治体は下位になってしまいます。これは所沢に限らず、さいたま、川口、川越、越谷も同様で、それは図書購入費に限らず、その次の蔵書冊数も含めて、1人当たりの平均になりますと、下ってしまうというのが現状でございます。これを上げるといことになりますと、試算はしておりませんが金額にして億単位で継続していきませんと、1人当たりの順位が一桁になることは難しいと思われます。

(佐藤教育長)

今の説明でよくわかりました。要するに怠っているのではなく、人口の多い自治体はどうすることもできないという現実があるということですね。このままの数字を読んでしまうと、そう見えてしまいますよね。

(山寄教育総務部長)

補足ですが、今後事務局内でも詰めていかなければならないのですが、単純に町・村立図書館の費用と比べてしまうと、人口との関係で間違った印象を与えかねないと思いますので、例えば図書購入費は県内でどれ位である、更に人口30万人以上の市で比較するとどうなっているなど、所沢と同じような状況で比べた方が数字として意味が出てくるかと思っておりますので、事務局の方でも検討させていただければと思います。あまり誤解を与えかねない表現はよろしくないかと思っております。

(斉藤教育総務部次長)

以前、日本各地の人口30万人以上の都市を調べたことがございます。もち

ろん、かなり多い図書購入費を持っている自治体もございます。所沢市でも年間5000～6000万円が現状で予算措置されておりますが、これは平均的な数字かと思われまます。ただ、図書館といたしましては新しい本、新鮮な本など、色々と時代が変わっていく中で情報を発信していくためには、今後も粘り強く財政当局と話をし、予算についても何とかしていきたいと考えております。

(吉本委員)

航空公園の運動場の件ですが、付帯施設を造るということで検討しているということですが、付帯施設によっては公式競技の施設になる場合があり、それによって、試合のランクがあると思うのですね。そのあたりも検討されて考えられているのか、お聞きしたいのですが。

(内堀スポーツ振興課長)

今現在、検討中でございますし、決定しておりません。それから先ほど広さについてですが、ラグビーができるとだけお答えしましたが、一辺が88mと148mの広さでございますので、補足させていただきます。

(吉本委員)

できるだけ大きな大会ができるように、市民体育館はバレーボールやバスケットボールが公式競技用としてあるのですが、そこまでは無理だとしても、先日、早稲田大学の競技場が公式競技場で、公認記録が取れる施設になったということですので、常にそのあたりを念頭において、体育施設というものは考えていただきたいと思ひます。

(佐藤教育長)

吉本委員の補足になりますが、航空公園の野球場は今、大学の公式戦までができるようになっております。その前ですと、もう少し手前のランクの公式戦しかできませんでしたので、改修によって大学生まではできるようになっております。吉本委員が言われるように、少しでもランクが上がるように、折衝していただいているところです。しかし、この件については、県の協力を得られないと、どうにもならないので、県に対して十分に働きかけをしていく必要があるのではと考えております。

- ・教育委員会 12 月定例会：市議会第 4 回(1 2 月)定例会の開催日程と調整中
- ・教育委員会 1 月定例会：1 月 30 日(水)午後 1 時 30 分～ 602 会議室

1 0 閉 会 午前 11 時 12 分